

1. これまでのステップでわかったこと

1) ステップ1~3でわかったこと

ステップ1

●ステップ1では、「福岡空港の現状と課題」と「空港能力の見極め」などについて調査しました。

●福岡空港の現状と課題

利用者から見ると(利用者アンケート結果)

- ・利用者は、「路線数」、「便数」、「アクセス」、「航空運賃」を重視していることがわかりました。
- ・利用したい時間帯は朝・夕のピーク時であることや便数の少ない路線に不満があることがわかりました。

地域から見ると

- ・福岡空港は九州、福岡の経済発展を支えています。
- ・福岡空港には、今後、成長する東アジアとの結びつきを深めていくことが期待されています。
- ・航空機騒音や建物の高さ制限などの課題があります。

福岡空港の施設面から見ると

- ・駐機場、滑走路、誘導路等に混雑の原因があります。

●空港能力の見極め

現在の福岡空港の能力

- ・福岡空港の年間滑走路処理容量は14.5万回という前提のもとでは、平成15年の実績13.6万回に対して約0.9万回の余力があるものの、旅客の利用や航空機の運航には制約が生じはじめています。

有効活用方策を施した場合の福岡空港の能力

- ・現空港敷地内で有効活用方策(平行誘導路二重化)を実施した場合、年間滑走路処理容量が14.9万回になると見込まれ、滑走路処理容量や旅客の利用・航空機の運航の制約が若干緩和されることになります。

ステップ2

●ステップ2では、7つの「地域の将来像」と4つの「福岡空港の役割」をまとめました。

【着目する論点】 【地域の将来像】

- ①グローバル化 : 成長する東アジアを中心とした国際社会と共生する地域
- ②少子高齢化 : 国内外から多彩な人材を引きつける、多様な機会に充ちた地域
- ③地方分権 : 地域性を活かして競争力のある自立した地域
- ④価値観の多様化 : 様々な人々が交流し、ゆとりと豊かさを実感できる地域
- ⑤IT化(高度情報化) : ITを活かして優れた知識を創造し、国内外に情報発信する地域
- ⑥社会資本形成 : 戦略的な社会資本形成によりグローバルな競争力をもつ地域
- ⑦環境重視 : 都市の発展と環境への配慮が好循環した持続可能な地域

【福岡空港の現状と課題】(ステップ1の結果から)

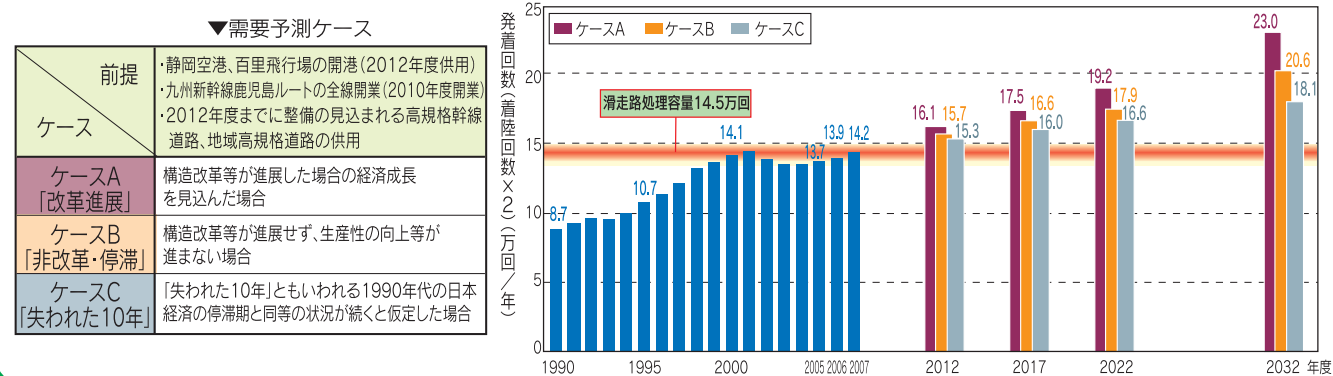
利用者の視点・地域の視点・航空ネットワークの視点・空港施設の視点

【福岡空港の役割】

- 海外・全国と福岡を結び相互交流の拡大を支える空港
【必要となる取り組み: 航空ネットワークの拡充】
- サービス向上を促進し、航空需要を支える空港
【必要となる取り組み: 空港容量の確保】
- 福岡の交通結節機能を活かし、速く・安く・快適な移動を支える空港
【必要となる取り組み: 利用者の利便性向上】
- 地域と共存しながら、福岡・九州の自立的発展を支える空港
【必要となる取り組み: 幅広い航空利用と安全・環境等への配慮】

●将来の航空需要予測については、国内・国際航空旅客は今後の経済成長や福岡都市圏の人口増等に伴い増加が見込まれ、福岡空港では2010年代初期には年間滑走路処理容量に余力がなくなり混雑状況が拡大し、需要に十分応えられなくなるものと予想されることがわかりました。

【年間発着回数の予測結果】



1. これまでのステップでわかったこと

1) ステップ1~3でわかったこと

ステップ3

●ステップ3では、「将来需要への対応方策」と「将来対応方策の評価の視点」を調査検討しました。

●将来需要への対応方策

1) 近隣空港との連携

近隣空港との連携については、複数空港を運用している国内外の事例を参考に、福岡空港での「利用制限型」と、近隣空港での「需要誘発型」に分けて検討しました。利用制限型は、利用者や地域に大きな負担を課し、現在の航空自由化の流れからも実現が困難であるため、対応方策とはなり得ないことがわかりました。

また、需要誘発型は、福岡空港の需給逼迫緩和効果がわずかであるため、抜本的な対応方策とはなり得ないことがわかりました。

2) 現空港における滑走路増設

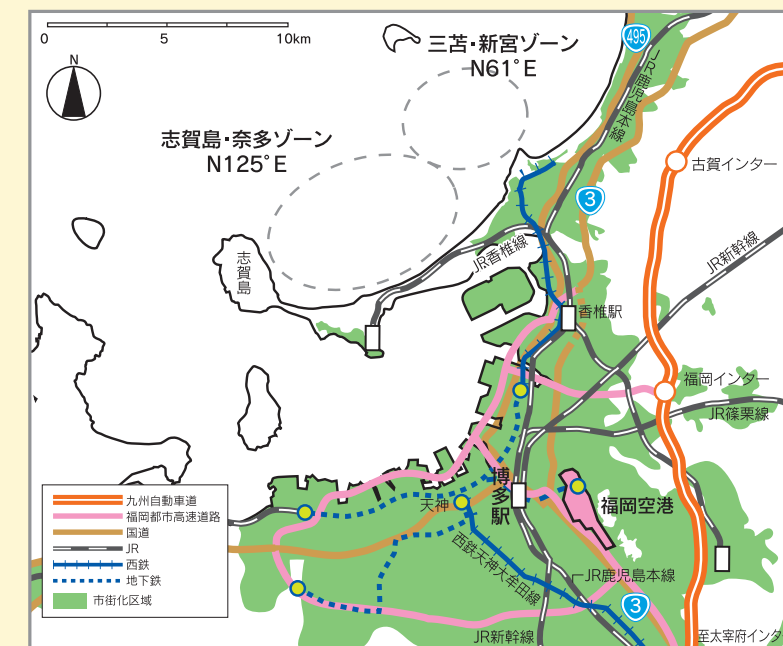
国内事例や現行基準から検討条件を設定し、現滑走路の東側または西側に滑走路を増設した場合の標準的な配置と、最も周辺地域への影響を軽減した配置の3つを代表例として、それぞれの特徴を整理しました。

	東側配置(滑走路間隔300m)	西側配置(滑走路間隔300m)	西側配置(滑走路間隔210m)
配置			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・用地拡張面積: 約90ha(東側約40ha、西側50ha) ・概算事業費: 概ね7,500億円 ・工事期間: 14年程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・用地拡張面積: 西側で約60ha ・概算事業費: 概ね5,000億円 ・工事期間: 10年程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・用地拡張面積: 西側で約30ha ・概算事業費: 概ね2,500億円 ・工事期間: 8年程度
	※工事期間: 別途、環境アセスメント、用地買収、埋蔵文化財調査などの調査期間の考慮が必要		

3) 新空港

JR博多駅から30km以内の福岡都市圏で地形条件や運航空域、騒音などから、滑走路が配置できる候補地6ゾーンを選出し、その中から実現可能性が高いと考えられる2ゾーンについて特徴を整理しました。

なお、空港面積は約530ha、概算事業費は概ね1兆円から1.1兆円、工事期間は13年程度を見込んでいます。



●将来対応方策の評価の視点

「福岡空港の現状と課題」及び「地域の将来像」から導き出された4つの「福岡空港の役割」を基に、PIステップ1、2で寄せられた意見も踏まえつつ、将来対応方策を比較評価するにあたって、基本となる評価の視点として、「需給逼迫緩和の視点」と「利用者利便性の視点」、「環境・安全の視点」、「まちづくりや地域振興の視点」、「事業効率性の視点」の5つを設定しました。